

# 特集

## 「自然首都・只見」を教育旅行の里に 只見町教育旅行補助金制度を活用し学校を誘致



▲仙台市八木山中学校の生徒と先生の皆さん



▲仙台市広瀬中学校の皆さんの受入の様子(左右)



▲仙台市八木山中学校の皆さんの受入の様子(左右)



今年のみ見町は、5月から10月まで県内外から多くの小・中・高の児童・生徒達が、修学旅行や林間学校など教育旅行（宿泊体験学習）に訪れます。  
平成26年6月に登録となった只見ユネスコエコパークのフィールドを活用して、生徒達は自然環境を学び、農家民泊で田舎体験をし、町内の観光施設や宿泊施設で学校生活の思い出をつくっていきます。  
今回は、只見町を教育旅行の里にする為の施策と、その活動内容をご紹介します。

### ◆災害による背景

平成23年に発生した東日本大震災や新潟・福島豪雨災害により、只見町に訪れる教育旅行の学校数が減少しました。震災直後の予約取消は、5校709人に上り、多くが首都圏の学校でした。福島第一原子力発電所の事故による風評被害により、町に教育旅行で訪れたのは、県内の学校だけになってしまいました。

しかし翌年の平成24年、千葉県習志野市にある私立「東邦大学付属東邦中学校」は、風評がまだ残る中で当町を訪れました。当町を選んだ理由として「農家民泊体験の受入ができる只見町に決定した」とのことでした。町では、災害前から積極的に農家民泊を推進し、受入農家を増やしてきました。結果、震災から1年

後には「東邦中学校」の受入につながりました。

### ◆町をあげての目標と施策

町は教育旅行の積極的な受入を推進する為に、「只見町総合戦略」において、受入人数を平成27年度284人から平成31年度1,000人という目標を掲げています。目標達成の為、「只見町教育旅行補助金」を平成27年度に制度化しています。「只見町子ども農家体験協議会(事務局/町観光まちづくり協会)」が窓口となり、補助金を活用しながら、営業活動を積極的に行的学校の誘致を図っています。  
学校側に、町の受入体制と宿泊費の一部助成などをアピールすることで、行き先の候補地となるなど成果がでていきます。

**「H28年度町教育旅行補助金」**

- ◆予算／7,000,000円
- ◆下見(視察)費補助
- ◆宿泊費補助(生徒・引率)
- ◆町内の移動費補助
- ◆旅行会社広告宣伝費
- ◆合宿補助(宿泊費)
- ◆誘致活動費

**「H28年度産業振興対策補助金」**

農家民泊開業に係る費用を補助。

- ◆農家民泊開業申請費用
- ◆飲料水など滅菌装置設置費

※補助率／各項目8割補助

※農家民泊開業者を募集しております。

詳しくは下記まで。

事務局／町観光まちづくり協会 (Tel.82-5250)



▲別れを惜しむ生徒と農家さん



▲千葉県八千代市村上東中学校の皆さん

**◆福島県のサポート**

福島県でも風評被害の払しょくと、教育旅行の受入回復を図る為に様々なサポートを展開しています。県南会津地方地方振興局では、バス代や宿泊費、体験費などを助成する補助事業を制度化しており、郡内における教育旅行の受入回復に大きな効果をもたらしています。町もこの補助事業を活用し、更に町教育旅行補助金と併用し、学校側の風評被害を払しょくするメリットを作りあげています。

**◆只見ユネスコエコパークの活用と他町村との連携**

学校側のニーズは多様化していますが、町の特性を活かし、ここでしかできないことを考え提案してきたコースがあります。それは「ユネスコエコパークに認定されたフィールドを活用し、環境学習としての学びの場を提供すること」です。人と自然の共生がユネスコエコパークの理念であり、只見町の豪雪がつくりあげた自然環境と、そこで暮らす町民の暮らしこそが、学校側へ提供できる最高の学びだと考えます。

そこで町が推進する体験が「農村生活体験」なのです。雪と暮らす町の普段の暮らしを体験することで知恵を学び、農家さんの包みこむような愛情に触れることで、生徒達の一生の思い出になり、学校側の満足度も上がりリピーターとなります。東邦中学校は今年で継続5年目となるリピーターです。

また、只見町のもう一つの施策が、他町村との連携です。只見町の農家民泊の受け皿は、

民泊稼働軒数が約35件程度であり、130人程度が限界です。しかし、隣接する南会津町や金山町と連携することにより、受け皿の規模を400人まで大きくすることができ、この連携により、大規模校の受入も可能になります。コースも他町村と連携することにより、学校側のニーズに合ったメニューの選択肢が広がり、誘致の可能性が高くなります。

**◆平成28年度の受入**

昨年度から実施した施策や他町村との連携、営業活動などにより、今年度は5月から10月まで仙台や関東方面、大阪など県内外から13校807人の受入が決定しています。5月は仙台市や千葉県から3校の新規中学校を、近隣町村と連携し受入を実施しました。

3校に只見町に来た理由を伺うと、「農家民泊の受入規模が大きかった為」や、「バス代が高騰しているが、補助が充実しており、保護者の負担が軽減できる為」「只見町に対する

イメージについて、自然環境が素晴らしく良かった」などの意見が聞く事ができました。これは学校側のニーズと町の施策が合致し、更に風評被害も少しずつ収まっていると感じました。



▲農作業にチャレンジ

**◆今後について**

このように町は、教育旅行の里にする為、様々な施策に取り組んでいます。受入目標「年間1,000人」を目指し、更に合宿などの受入体制も強化し、町に多くの学校が足を運んでもらえるよう、今後も事業の推進を図っていきます。地域の皆様も、教育旅行生に会ったら是非「こんにちは！」とむかえて頂きますようご協力お願い致します。